

## ➤ 11日 火曜

### ヨシュア



2:1 ヌンの子ヨシュアは、シティムから、ひそかに二人の者を偵察として遣わして言った。「さあ、あの地とエリコを見て来なさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。

2:2 ある人がエリコの王に、「イスラエル人の数名の男たちが今夜、この地を探ろうとして入って来ました」と告げた。

2:3 それで、エリコの王はラハブのところに人を遣わして言った。「おまえのところに来て、おまえの家に入った者たちを出せ。その者たちは、この地のすべてを探ろうとしてやって来たのだから。」

2:4 ところが、彼女はその二人をかくまって言った。「そうです。その人たちは私のところに来ました。でも、どこから来たのか、私は知りません。」

2:5 暗くなって門が閉じられるころ、その人たちは出て行きました。どこへ行ったのか、私は知りません。急いで彼らを追ってごらんください。追いつけるかもしれません。」

2:6 彼女は二人を屋上へ上がらせ、屋上に積んであった亜麻の茎の中におおい隠していた。

2:7 追っ手たちはヨルダン川の道をたどり、渡し場までその人たちを追って行った。門は、彼らを追う追っ手たちが出て行くと、すぐに閉じられた。

ラハブは神様のわざを聞いていました。それでイスラエルの神に従ったと思われませんが、おそらくそれだけでなく、エリコの王や人々の悪に嫌気がさしていたと想像できます。

彼女は遊女という不道徳とも理解される生活をしていましたが、それにも事情があったのでしょうか、心は純粋であったようです。主はその心をご覧に

なつたのでした。人をうわべでなく、その心で見ようでありたいと思います。

これはまさに後の時代になって、イエス様が遊女を受け入れて神の国を語られたことを想起させます。神の国の価値観で生きる私たちも、また教会もその価値観が問われます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

